

# 5

快適  
都市生活術  
田園

センター北 ■ 須本邸

## 漫画家夫妻が望んだ仲間が集える プレイルームのような住まい

撮影：渡邊慎一郎 取材：文：木村希代美

パーティーを盛り上げる  
電動ダーツやスロット  
などの遊具がいろいろ

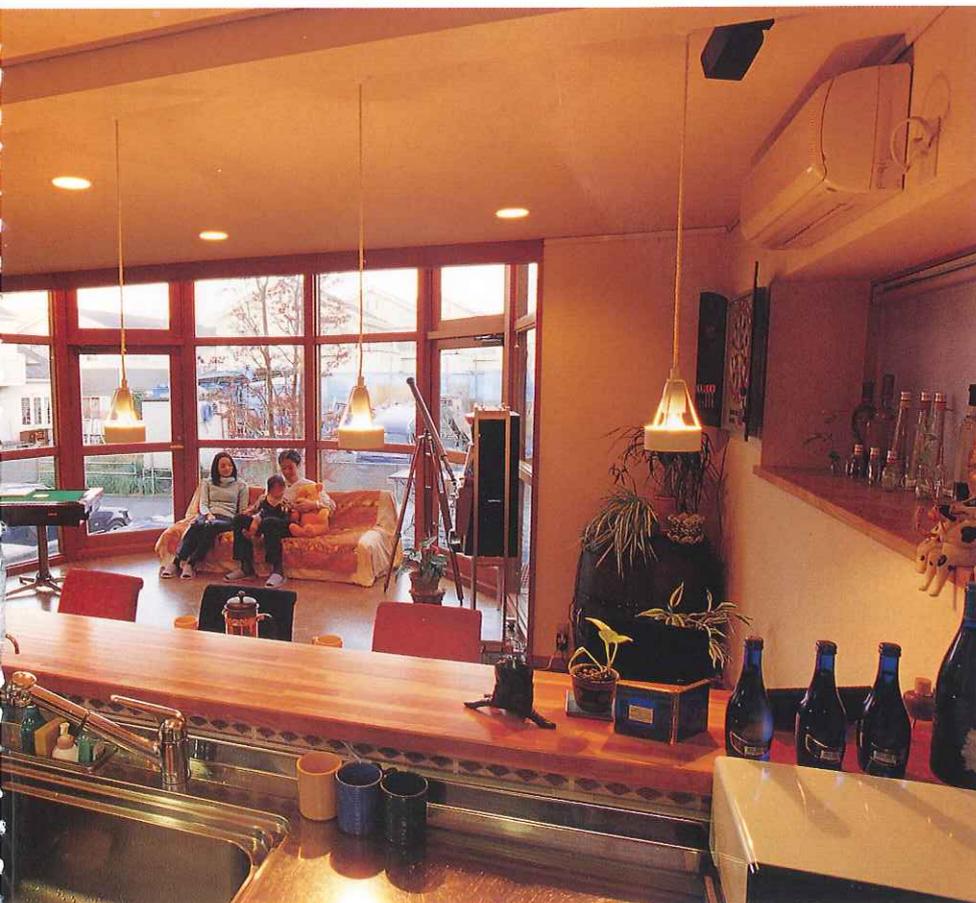
せせらぎが流れる緑道を歩き、センター北駅から8分ほど。都筑区牛久保東にある須本邸は、漫画家の須本壮一さんとあさ美さん夫妻の仕事場を兼ねたマイホーム。石を張ったポーチに六角形に張り出すようにデザインされた大きなガラス窓が、とても印象的な住まいだ。

壮一さんは「本さういち」というペンネームで、『近代麻雀オリジナル』に「麻雀無限会社39（ザンク）」を連載中。人気のテレビ番組「プロジェクトX」を下敷きにした漫画も書き下ろしている。妻のあさ美さんも、1歳3カ月になる長男の爽太郎くんの育児に追われながら、『漫画パチンコ777』に「波乗りジョニー」というパチンコ漫画を連載中だ。そんな夫妻が5年ほど前に建てた

住まいのコンセプトは「人が自然と集まる家」。出窓のある1階のリビングルームには、電動ダーツや麻雀卓、スロットなどの遊戯マシンが、ダウンライトに照らされた空間に違和感なく溶け込んでいる。キッチンと向かい合ったカウンターテーブル越しに見るその風景は、しゃれたダーツバーのような雰囲気だ。

「いろいろな人を呼んでお互いに紹介して、見知らぬ同士を友だちにしていくのが大好きなんです。僕は漫画家になる前は舞台にも立っていたので、出版関係だけではなく芸能界にも知人がいて、多いときには40人くらいが集まります。息子が生まれた今はちょっと謹んでいますけど、以前は2カ月に一度は仲間を招いて盛り上がっていましたね」。

見るからに社交的で、初対面の相手ともあつという間に打ち解けてしまうタイプの壮一さん。それに対して、1歳3カ月になった息子の爽太郎くんを抱きながら静かに微笑んで



淡い黄色の塗り壁とベイ松の柱が優しい雰囲気をかもしだしているリビングルーム。黒いコルク貼りの床が壁の色を引き立てる

六角形の出窓とキノコのような屋根が印象的な須本邸。出窓の上部はウッドデッキで、ここから見る港北ニュータウンの夜景も美しい  
 問い合わせ：有限会社宝建設 Tel.044-877-3861  
<http://www.takara-kensetsu.com>

いるあさ美さんは、どちらかという  
 と寡黙で控えめな印象。  
 「でも、私も主人に負けなくらい  
 麻雀好きなので、人に来てもらうの  
 は大歓迎。といっても、特別なもて  
 なしをするわけではありません。そ  
 れぞれに麻雀やダーツで楽しんでも  
 らうだけで、料理や飲み物も来た人  
 に冷蔵庫を覗いて作ってもらおうのが  
 我が家のやり方なんです」。

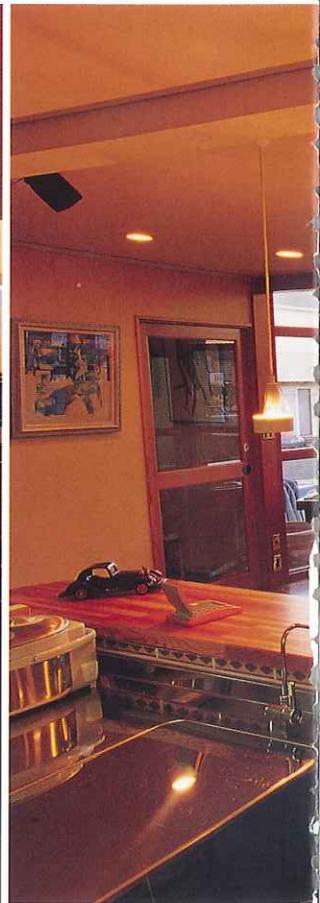
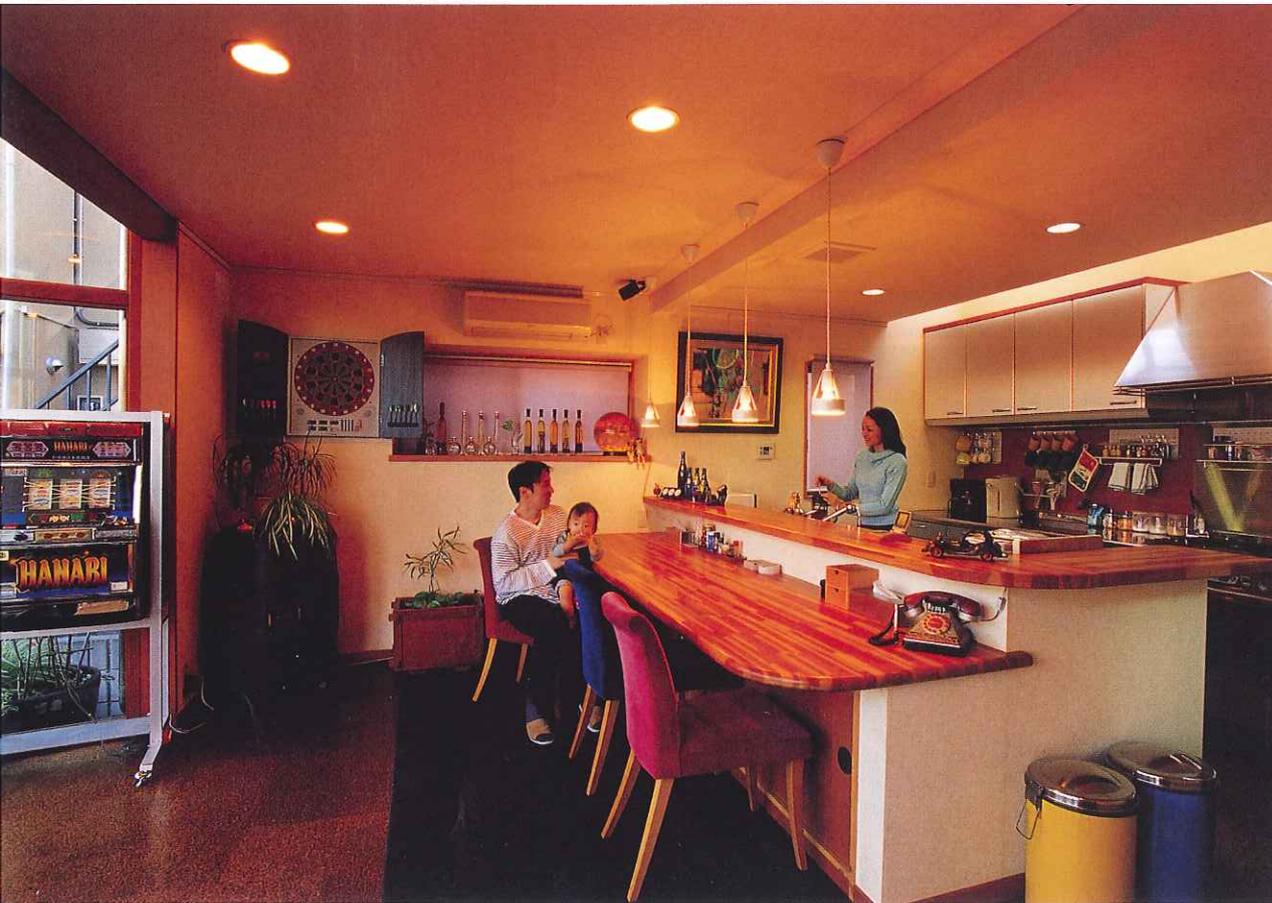
譲り、ここは妹に譲ろうと考えてい  
 たらしいんです。それを二子新地よ  
 りも良いと言って無理にもらってし  
 まった。僕はどちらかという気楽  
 なマンション派なんです。妻は戸  
 建て派。しかも、デパートのある新  
 興住宅地に住むのが夢だという。港  
 北ニュータウンは、まさにうってつ  
 けの場所だったんです」。  
 当時の牛久保一帯はまだ道路もな



## 2万冊を超える蔵書の 収納スペースをいかに 確保するかが課題だった

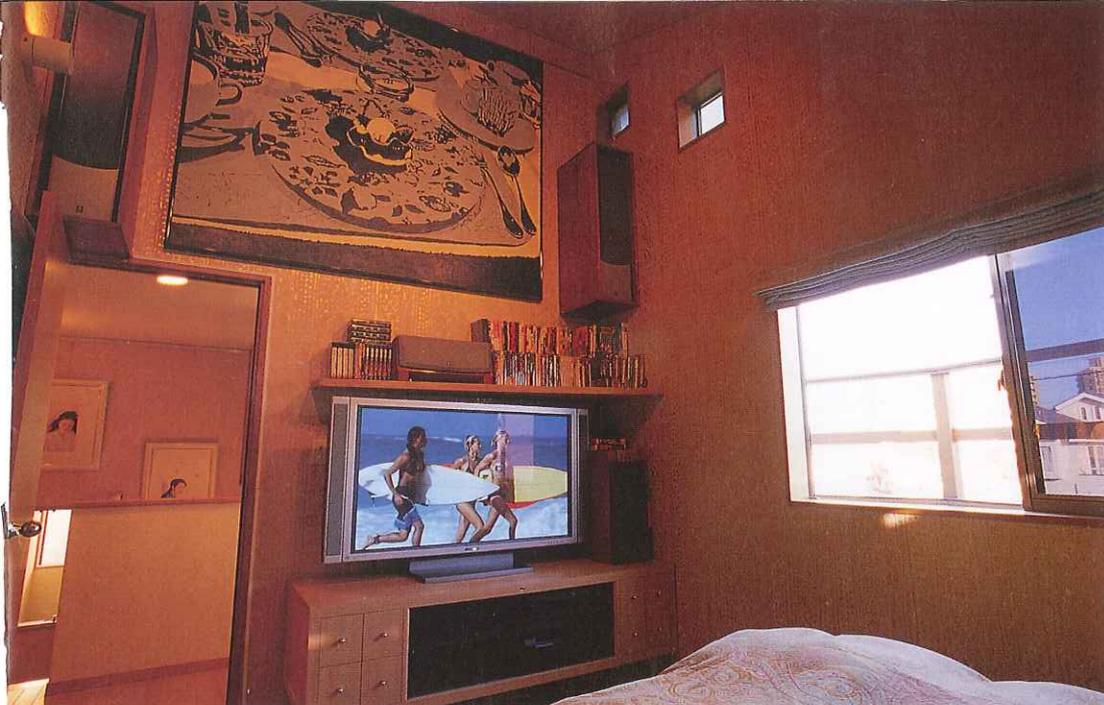
須本邸が建つ45坪の土地は、もと  
 もとは壮一さんの父親の持ち物で10  
 年ほど前に譲り受けたものだ。  
 「父は僕に実家の二子新地の土地を

く、区画の造成が急ピッチで進めら  
 れている状態だったが、平成6年に  
 建築の許可が降りると同時に住まい  
 づくりを開始。プランニングは、壮  
 一さんの中学・高校の同級生である  
 佐藤治正氏に依頼したという。  
 「ハウスメーカーが持ち込んだもの  
 も合わせて10通りほど図面を検討し  
 ましたが、彼の提案がいちばん独創

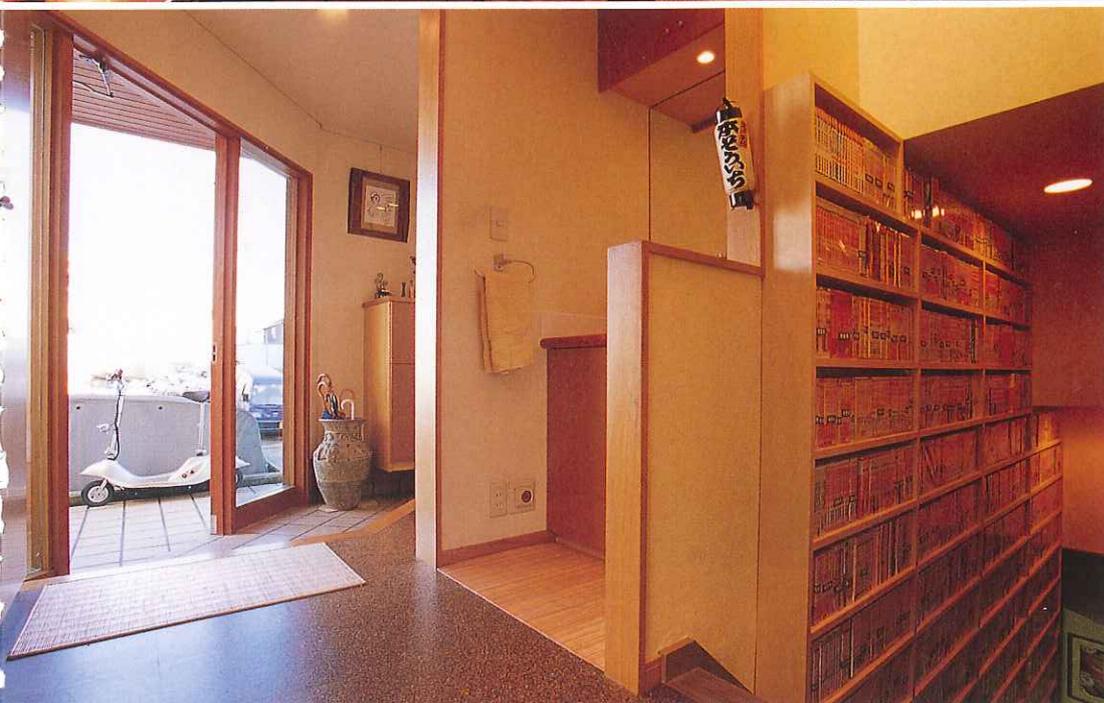


大きなキッチンカウンターは、仕事のアシスタントも含めた一家の憩いの場。ときには、料理好きの壮一さんが腕を振るうことも

# 5

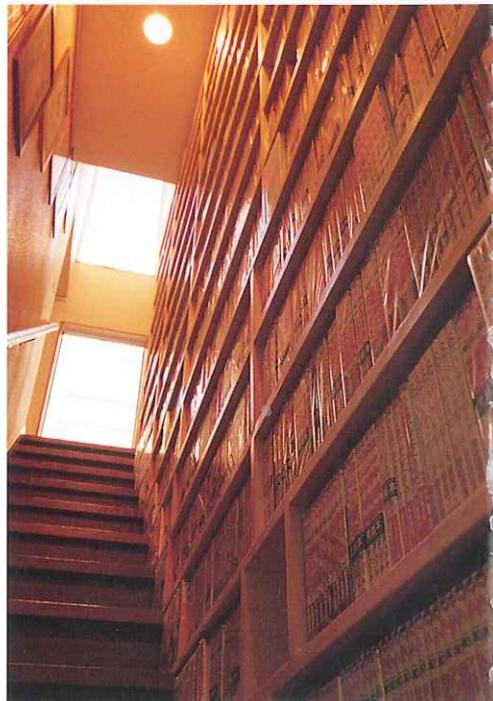
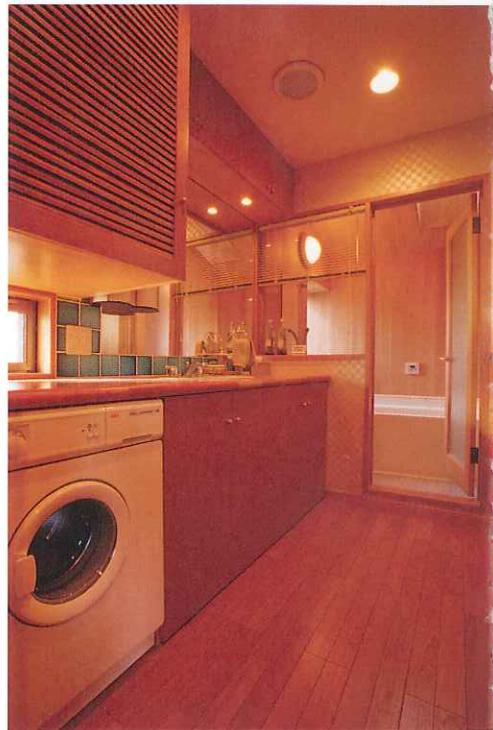
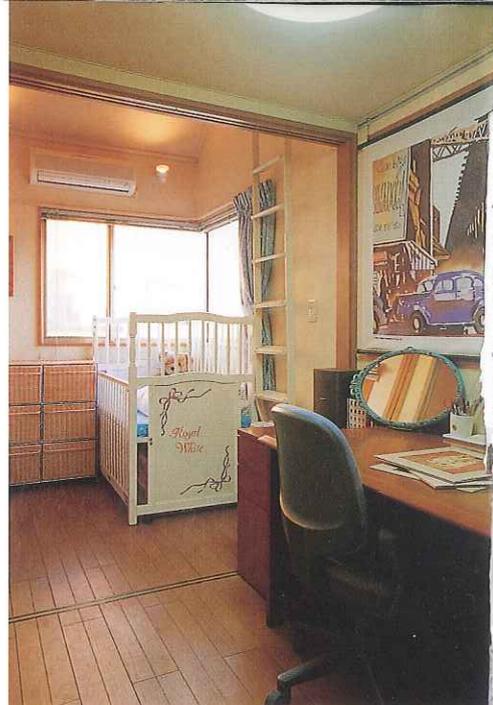


(右上) ウッドデッキに面した壮一さんの寝室。壁の絵はあさ美さんの卒業制作。入口右手にロフトがつくられ、膨大な週刊漫画の蔵書が収まっている。(右中) 広々としたキッチンでは仲間と大勢でワイワイと料理がつかれる。(右下) 玄関を入れて右手がリビングで、正面が地下の仕事場へと続く階段。玄関ドアと上がりかまちに角度をつけ、どちらにも上がりやすいように工夫されている。(左上) あさ美さんと爽太郎さんの寝室。かつてはゲストルームとして使われていた。中央のはしごでロフトにアクセス。(左中) 2階にある洗面所と浴室。木の香りがただよふ風呂場は、小さいながらも気持ちのいいスペース。あさ美さんが最も気に入っている場所だ。(左下) 仕事場へと続く階段の脇にも本棚が備えつけられ、コミックスの稀読本がズラリ。あさ美さんが集めたものも多いという





壮一さんのコレクションの最新シリーズがチョコエッグのフィギア。プレミアムものも含めて全種類を揃えたとか。ケースの裏手にある納戸にも、漫画家の直筆色紙などの貴重なコレクションが満載だ。壁一面をコミックスが覆う仕事場は、ドライエリアをとっているので明るく風通しもいい



的だったんです。とくに気に入ったのが、居間のご真ん中に螺旋階段をつくるという案。強度の問題で最終的には消えてしまいました。床まで素通しガラスの出窓を造るなんて、ハウスメーカーではなかなか出せない発想だと思いますね。

何よりもお互いに気心が知れているので、納得のいく住まいづくりに向けて設計段階から施工中まで遠慮なく意見を交わすことができたのがよかったですという壮一さん。

「とにかく収納スペースをいかに多く確保できるかが最大の課題でした。僕はコレクション癖があって、漫画本と週刊誌の蔵書だけでもゆうに2万冊は越えているんです。2階の各部屋にあるロフトも地下の仕事部屋の本棚も、当初のプランにはありませんでした。後で掘り直すことができない地下室も、あと1センチもう1センチ広げできないかと何度も交渉して、建築基準ギリギリのところまで掘り広げてもらったんです」。

### シヨップピングセンターに 車で乗り付ける郊外型の 暮らしが気に入る

二子玉川の賃貸マンションから移り住んで5年。あさ美さんは爽太郎くんが生まれてから仕事のペースを落とし、散歩ついでにデパートに出かけるなど郊外生活を楽しんでるようだが、壮一さんはどうだろう。

「相変わらず徹夜が何日も続く生活ですが、月に1度はシヨッピングセンターにクルマで乗り付け、栄養剤などの必需品をバーンと買い込むのがいいストレス発散になっています。この辺はクルマ社会だから、ときどき以前に住んでいたロサンジェルス街にいる気分になったりも」。

職住接近の暮らしで、爽太郎くんの日々の成長を身近に感じられるのも嬉しいともいう。その傍らで微笑むあさ美さんともども、壮一さんも郊外生活を堪能しているようだ。